

# 平成25年度 財務諸表の概要



愛媛大学

## 貸借対照表の概要

### ■貸借対照表とは

国立大学法人の財政状態について、決算日（平成26年3月31日）における全ての資産、負債及び純資産を示したものです。

### 貸借対照表【資産の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	増減額	
土地	30,468	30,451	△ 17	
建物等	30,057	30,752	694	教育学部3号館改修、医学部図書館改修、附属高校校舎改修等による増加
工具器具備品	7,761	7,168	△ 593	工具器具及び備品増加による減価償却費の増加に伴う減少
図書	5,747	5,789	41	
ソフトウェア	62	43	△ 19	
現金及び預金	8,334	10,161	1,827	定期預金、借入金等の増加
有価証券・定期預金	4,112	1,711	△ 2,401	譲渡性預金満期に伴う減少
未収附属病院収入	3,810	3,659	△ 152	年度末（2～3月分）の未収入金の減少
その他の未収入金	470	420	△ 51	
その他の資産	1,335	1,476	141	建設用前払金の増加による建設仮勘定の増加（585百万円）等による増加
<b>資産</b>	<b>92,158</b>	<b>91,630</b>	<b>△ 528</b>	

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

#### 【資産の部について】

平成25年度末の資産合計は、前年度比5.3億円減の916.3億円となっています。

##### 主な増加要因

- ・教育学部3号館改修、医学部図書館改修、附属高校校舎改修等による建物の増加が6.9億円
- ・定期預金、借入金等の増加による現金及び預金の増加が18.3億円

##### 主な減少要因

- ・既存資産の使用年数経過に伴う資産価値の減少（減価償却）による工具器具備品の減少が5.9億円
- ・譲渡性預金満期に伴う減少等による有価証券・定期預金の減少が24.0億円



# 貸借対照表の概要

## 貸借対照表【負債の部】

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	増減額
資産見返負債	14,459	15,527	1,068
借入金	16,006	15,051	△ 956
運営費交付金債務	1,922	926	△ 996
寄付金債務	2,683	2,887	205
前受受託研究費等	347	382	35
未払金	6,868	6,355	△ 513
その他の負債	1,777	1,600	△ 177
負債：計	44,062	42,728	△ 1,334

### 主な増減理由

運営費交付金財源による取得資産の増加

病院借入金の元本償還に伴う減少

業務達成基準による繰越額の減少

寄付金残額の増加

年度末における取得資産の減少に伴う減少

### 【負債の部について】

平成25年度末の負債合計は、前年度比13.3億円減の427.3億円となっています。

#### 主な増加要因

- ・運営費交付金等を財源とする資産の取得による資産見返負債の増加が10.7億円

#### 主な減少要因

- ・病院借入金の元本償還による借入金の減少が9.6億円
- ・業務達成基準による繰越額の減少に伴う運営費交付金債務の減少が10.0億円



## 貸借対照表【純資産の部】

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	増減額
資本金	36,172	36,163	△ 9
資本剰余金	5,767	6,167	400
前中期目標期間繰越積立金	2,918	2,918	0
目的積立金	1,099	1,054	△ 45
積立金	1,451	2,141	690
当期末処分利益	690	459	△ 230
純資産：計	48,096	48,902	806
負債・純資産	92,158	91,630	△ 528

重信土地譲渡による減少

施設費補助金、目的積立金を財源とする資産の取得による増加

24年度に発生した未処分利益のうち現金の裏付けの無い利益を積立金として計上

損益計算書の当期総利益と一致します

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

### 【純資産の部について】

平成25年度末の純資産合計は、前年度比8.1億円増の489億円となっています。

#### 主な増加要因

- ・施設費補助金、目的積立金を財源とする資産の取得による資本剰余金の増加が4億円



# 損益計算書の概要

## ■ 損益計算書とは

一会計期間における国立大学法人の運営状況を示したものです。業務運営に要した費用、事業の実施や業務の実現に応じて計上する収益を示しています。

## 損益計算書

### 主な増減理由

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	増減額	
<b>経常費用</b>				
業務費	37,968	39,138	1,170	外来患者増による病院収入増加に伴う経費の増加
教育経費	2,281	2,349	68	
研究経費	2,783	2,749	△ 34	
診療経費	10,903	11,704	801	消耗品費、移設撤去費の増加
教育研究支援経費	550	624	75	
受託研究・事業費等	1,150	1,110	△ 40	国・独立行政法人等の高額な受託研究の減少
人件費	20,302	20,602	301	看護師・医療職員の増加
一般管理費	1,083	1,048	△ 35	
財務費用等	272	247	△ 25	
<b>経常費用 計：</b>	<b>39,322</b>	<b>40,432</b>	<b>1,110</b>	
<b>経常収益</b>				
運営費交付金収益	10,524	11,633	1,109	業務達成基準等による繰越額の減少
学生納付金収益	5,799	5,738	△ 61	
附属病院収益	18,295	18,505	210	外来患者増等の病院経営努力による増加
受託研究・寄付金等収益	2,252	2,149	△ 102	国・独立行政法人等の高額な受託研究の減少
資産見返負債戻入	1,559	1,579	20	
その他収益	1,477	1,294	△ 183	固定資産取得の増加による補助金収益の減少
<b>経常収益 計：</b>	<b>39,905</b>	<b>40,898</b>	<b>993</b>	
経常利益 (△経常損失)	583	466	△ 116	
臨時損失	86	133	47	
臨時利益	28	122	94	
当期総利益	525	455	△ 70	
目的積立金取崩額	165	5	△ 160	
当期総利益 (△当期総損失)	690	459	△ 230	貸借対照表の当期末処分利益と一致します

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

### 【経常費用について】

平成25年度の経常費用は、11.1億円増の404.3億円となっています。

#### 主な増加要因

- ・ 外来患者増による病院収入増加に伴う診療経費の増加が8.0億円
- ・ 看護師、医療職員の増加による人件費の増加が3.0億円

#### 主な減少要因

- ・ 国、独立行政法人等の高額な受託研究の減少による受託研究費の減少が0.4億円

### 【経常収益】

平成25年度の経常収益は、9.9億円増の409.0億円となっています。

#### 主な増加要因

- ・ 業務達成基準等による運営費交付金繰越額の減による増加が11.1億円
- ・ 外来患者増加等の経営努力による附属病院収益の増加が2.1億円

#### 主な減少要因

- ・ 国、独立行政法人等の高額な受託研究の減少による受託研究等収益の減少が1.0億円
- ・ 固定資産取得の増加による補助金収益の減少等が1.8億円

平成25年度の当期総利益は2.3億円減の4.6億円となっています。しかしこの利益の要因は現金を伴う利益ではなく、主に長期借入金の元本償還や減価償却費等による現金を伴わない利益となります。



## キャッシュ・フロー計算書の概要

### ■キャッシュ・フロー計算書とは

一会計期間における国立大学法人の資金（キャッシュ）の収支状況について、一定の活動区分（業務活動・投資活動・財務活動の3区分）に分類して示したものです。

（単位：百万円）

#### 主な増減理由

	平成24年度	平成25年度	増減額
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	5,706	5,002	△ 704
原材料等支出	△ 13,026	△ 14,225	△ 1,199
人件費支出	△ 20,693	△ 20,593	100
その他の業務支出	△ 928	△ 924	4
運営費交付金収入	13,145	12,716	△ 429
学生納付金収入	5,445	5,318	△ 127
附属病院収入	17,938	18,647	708
受託研究・補助金・寄付金収入	3,144	3,348	204
その他収入	629	677	48
預り金の増加（または減少）	53	40	△ 13
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	△ 2,727	△ 4,233	△ 1,505
有価証券の取得による支出	△ 17,500	△ 12,800	4,700
有価証券の償還による収入	17,600	15,800	△ 1,800
定期預金等の預入による支出	△ 13,000	△ 14,800	△ 1,800
定期預金等の払戻による収入	13,200	11,400	△ 1,800
預託金の預入による支出	△ 500	△ 2,000	△ 1,500
預託金の払戻による収入	0	2,500	2,500
有形固定資産等の取得による支出	△ 4,905	△ 6,332	△ 1,428
有形固定資産等の売却による収入	0	20	20
施設費による収入	2,346	1,990	△ 356
その他	31	△ 10	△ 42
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	△ 1,798	△ 1,742	57
財務・経営センターへの返済支出	△ 920	△ 850	70
長期借入金の借入による収入	416	538	122
長期借入金の返済による支出	△ 548	△ 644	△ 96
リース債務等の返済による支出	△ 480	△ 550	△ 70
利息の支払い額	△ 266	△ 236	30
<b>IV 資金増加額（又は減少額）（I + II + III）</b>	1,180	△ 973	△ 2,153
<b>V 資金期首残高</b>	3,654	4,834	1,180
<b>VI 資金期末残高（IV + V）</b>	4,834	3,861	△ 973

業務活動によるキャッシュ・フローの主な減少要因としては、診療経費、教育研究支援経費の支出増に伴う原材料等支出の増加1,199百万円、運営費交付金収入の減少429百万円があげられます。また増加要因として、附属病院収入の増加708百万円があげられます。

投資活動によるキャッシュ・フローの主な減少要因としては、有価証券の償還による収入の減少1,800百万円、定期預金等の預入による支出の増加1,800百万円等があげられます。また増加要因として、有価証券取得による支出の減少4,700百万円、資金共同運用分の預託金払戻による収入の増加2,500百万円があげられます。

財務活動によるキャッシュ・フローの主な増加要因としては、財務・経営センターへの債務負担金の返済支出の減少70百万円、長期借入金の借入による収入の増加122百万円があげられます。また減少要因として、長期借入金の返済による支出の増加96百万円、リース債務等の返済による支出の増加70百万円があげられます。

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

※キャッシュ・フロー計算書の「期末資金残高」には定期預金が含まれないため、貸借対照表の現金及び預金とは一致していません。



# 財務指標による財務分析について

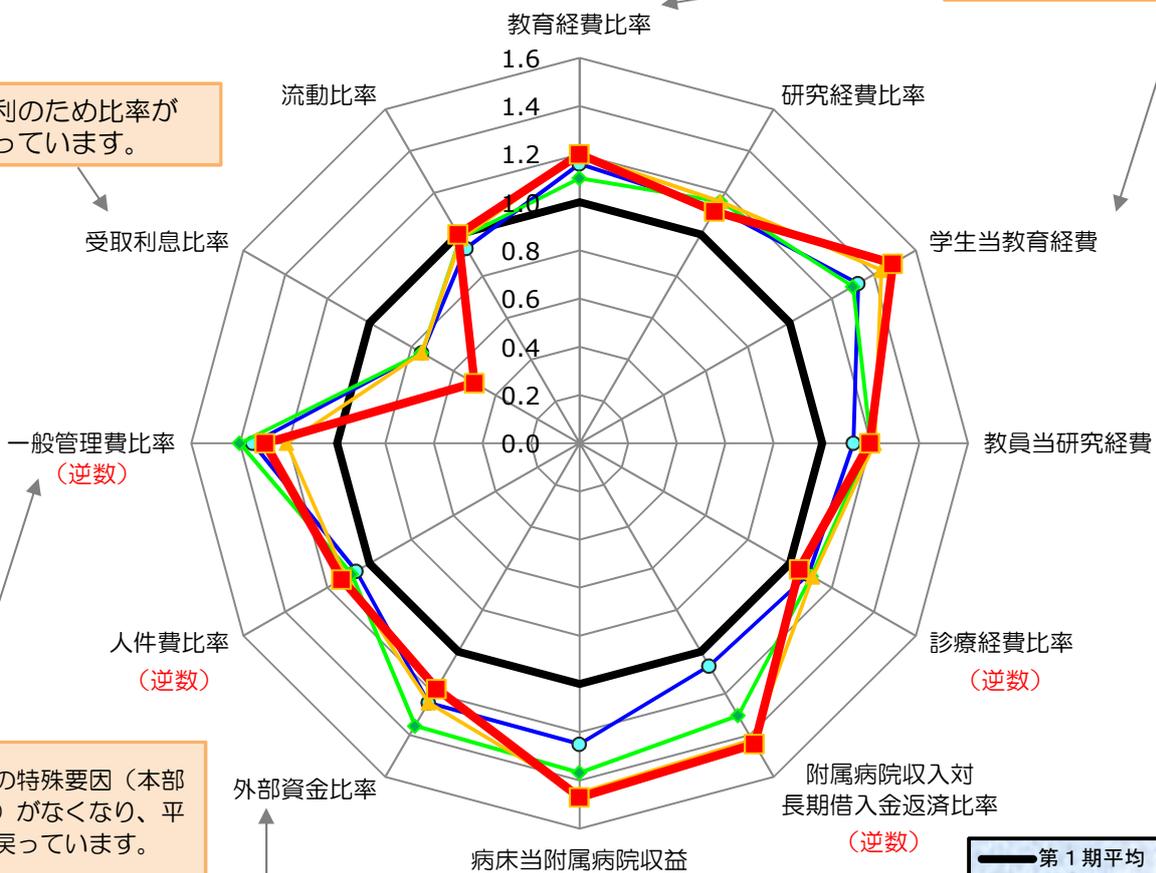
## 財務指標による経年比較

本学の第1期中期計画期間の平均を「1」とし、それに対する比率を表しています。外側であるほど値が良く、数値が低い方が望ましいものについては逆数を用いて算出しています。  
受取利息比率以外は前年度と比較して概ね同程度となっています。



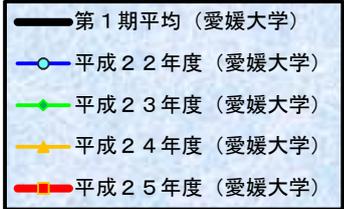
教育に対する十分な投資の結果です。

低金利のため比率が下がっています。



分母である経常収益が前年度と比べ993百万円増加（運営費交付金収益1,109百万円増が主要要因）していること及び受託研究受入額の減少（△149百万円）により、比率が下がっています。

前年度の特異要因（本部棟改修）がなくなり、平常値に戻っています。



関連財務諸表	財務指標		計算式	25年度	【参考】 第1期中期期間 平均	
	判断*1					
損益計算書	教育経費比率	↑	活動性	教育経費比率(%) =教育経費÷業務費×100	6.0%	5.0%
	研究経費比率	↑		研究経費比率(%) =研究経費÷業務費×100	7.0%	6.3%
	学生当教育経費	↑		学生当教育経費(千円)=教育経費÷学生実員	243千円	163千円
	教員当研究経費	↑		教員当研究経費(千円)=研究経費÷教員実員	2,445千円	2,044千円
	診療経費比率	↓		収益性	診療経費比率(%) =診療経費÷附属病院収益×100	63.2%
附属病院 切り外情報	附属病院収入対長期借入金返済比率	↓	健全性	附属病院収入対長期借入金返済比率(%) =(長期借入金返済+財務経営センター 納付金)÷附属病院収益×100	7.7%	11.1%
	病床当附属病院収益	↑	収益性	病床当附属病院収益(千円) =附属病院収益÷病床数	29,560千円	20,106千円
損益計算書	外部資金比率	↑	発展性	外部資金比率(%) =外部資金収益÷経常収益×100	5.3%	4.5%
	人件費比率	↓	効率性	人件費比率(%)=人件費÷業務費×100	52.6%	59.5%
	一般管理費比率	↓		一般管理費比率(%) =一般管理費÷業務費×100	2.7%	3.5%
貸借対照表 損益計算書	受取利息比率	↑	収益性	受取利息比率(%) =(受取利息+有価証券利息)÷(現金・ 預金+有価証券)×100	0.2%	0.4%
貸借対照表	流動比率	↑	健全性	流動比率(%)=流動資産÷流動負債×100	119.2%	119.1%

\*1 ↑高い方が望ましい、↓低い方が望ましい

活動性

教育研究活動が適正な水準で実施されているか

教育経費比率：教育経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における教育の比重を判断する指標  
研究経費比率：研究経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における教育の比重を判断する指標  
学生当教育経費：学生1人あたりの教育経費であり、大学における教育活動の活発さを判断する指標  
教員当研究経費：教員1人あたりの研究経費であり、大学における研究活動の活発さを判断する指標

効率性

経営が効率的に実施されているか

人件費比率：人件費が大学の業務費に占める割合であり、人件費の削減計画等に基づく効率的な運営がされているかどうかを示す指標  
一般管理費比率：主たる業務とされる教育研究以外の管理運営に係る経費と事業経費との割合であり、効率的な運営がされているかどうかを示す指標

健全性

継続安定的に教育研究を提供するため財務の健全性が確保されているか

附属病院収入対長期借入金返済比率：附属病院収益に対する長期借入金返済の比率であり、当該国立大学附属病院の健全性を判断する1つの指標  
流動比率：1年以内に返済又は支払うべき債務（流動負債）に対して、現金化が可能な流動資産がどの程度確保されているかどうかを示す指標

発展性

多様な資金（外部資金）を確保して大学としての財源を安定させているか

外部資金比率：経常収益に対する外部から獲得した収益の比率であり、大学の外部資金による活動状況及び収益状況を判断する指標

収益性

自己収入について、経費に見合う収益確保がなされているか

診療経費比率：附属病院収益に対する診療経費の比率であり、附属病院の収益性を判断する指標  
病床当附属病院収益：病床1床あたりの病院収益であり、附属病院における収益性を判断する指標  
受取利息比率：現金預金、有価証券からどれだけの利息を得ているかを示す指標



EHIME UNIVERSITY

**【お問い合わせ先】**

**国立大学法人愛媛大学**

**財務部財務企画課決算チーム**

**〒790-8577 松山市道後樋又10番13号**

**TEL : (089) 927-9062**

**FAX : (089) 927-9068**

**E-mail : [bunseki@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:bunseki@stu.ehime-u.ac.jp)**